

第1学年 総合的な学習の時間 学習指導案

菊池市立菊池南中学校
教諭 上野 元気

1 単元名 「美しい海を取り戻した水俣から学び、伝えよう」

2 単元の目標

- 水俣病問題に関する差別と闘ってきた人々の思いを知り、する側の問題である差別を身の回りからなくしていこうと考えることができる。また、水俣の環境再生の歴史や現在の取組について正しく理解することができる。 (知識及び技能)
- 人権学習や水俣現地学習で学んだことを踏まえ、水俣病に関わる人権課題や環境を守る取組の実際についてグループごとにテーマを決めて学習し、学習成果発表会で保護者や地域の方に伝えることができる。 (思考力・判断力・表現力等)
- 水俣病に関する人権課題や環境を守る取組が、現在の私たちの身近な生活や世界の環境を守る取組につながっていることを自覚し、主体的に取り組むことができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

3 単元について

(1) 教材観

本単元では水俣病問題に関する様々な資料を用いて、人権学習や環境問題学習を行う。現在の水俣湾は、サンゴやタツノオトシゴが生息するとともに美しい海である。しかし、1956年に初めて水俣病の患者発生が報告された後、美しい海と人々の絆を取り戻すまでには、多くの人々の犠牲や努力があった。単元前半の人権学習では、「きずな」(熊本県人権教育研究協議会)の「話したいと思うようになりました」を資料として扱う。資料を読むことで、水俣病問題の渦中、家族に患者を持つ当事者の方の当時の思いを知ることができる。資料中の「お母さん」が周りに家族のことを言えなかったのはなぜかを考え、「お母さん」が自分自身と向き合う中で自分の見方に気づき、差別をしない生き方、家族を誇る生き方を選んでいったことを知ることができる。学習を通して、差別は「する側」の問題であることに気づき、差別をしない生き方について深く考えることができる資料である。

単元後半では、環境問題にも焦点を当てる。実際に水俣病資料館と隣接している熊本県環境センターに行き、現在の美しい海を取り戻すための取組や、水俣市のごみの分別など環境を守る取組の実際を学ぶことができる。現地に行き、美しい海を背景に学びを深めることで、実感を伴う学習ができると考えられる。

(2) 生徒観

第1学年は5クラスある、校区内に4つの小学校があり、生徒たちは新たな出会いの中、日々人間関係を模索し、自分の安心できる居場所を探しながら生活している。一方で、学校生活の中では、互いを思いやる行動に課題が見られることもある。また、環境へ配慮した生活という点では、SDGsの達成を目指した委員会活動でアルミ缶回収などを積極的に行っている反面、教室やトイレの電気を付けっぱなしにするなど、一人ひとりの日常生活の中に見直していくべき場面もある。今回の学習を通して、持続可能な社会の創り手である生徒がよりよい生き方について自分の考えを深め、日常に変化がもたらされるようにしたい。

(3) 指導観

本単元の学習にあたっては、まず水俣病問題についての理解を深めるようにする。水俣学習については既に小学校第5学年で実施しているが、水俣病が公害であること、原因物質はメチル水銀であること、うつらない病気であることなど、基本的な知識をおさえる。「正しく知ること」は、差別を見抜くこと・人権を守ることに繋がる。資料の中の「お母さん」が立ち上がることができたのも、非科学的で理不尽な差別をなくそうとする正しいものの見方ができていたからだということに気付かせたい。差別は「する側」の問題である。資料を読んで、問題の所在はどこにあるかを考えさせなければならない。公害は高度経済成長期の社会状況に関わる環境問題であるはずである。では、なぜその中に並行して差別問題があったのか、人間の心の中にある差異性を見つめなおし、これから自分は共生社会の中でどう生きていくべきかという点について深く考えさせたい。

後半は現地水俣に行き、資料館と環境センターでの学習を行うが、発表に向けた見通しを持たせて現地に行くようにする。全学年で行われる学習成果発表会で、水俣に関する学習の成果を発表するという見通しを持って学習することで、目的意識を持った学習を行うことができる。発表に向けた活動は、劇、プレゼン・ポスター発表、背景画、モザイクアートと各学級を4つのグループに分け、他クラスの生徒と交流しながら作り上げるようにする。それぞれの担当教師と進度を調整しながら、本番に向けて学年が一体となった雰囲気を作っていきたい。

(4) ESDとの関連

○本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

- ・相互性…自然環境は、時代という縦軸でも現在の世界という横軸でも独立したものではなく、互いにつながりを持ち、循環しながら作られているものであるということ。
- ・公平性…誰も自由に自分らしく生きる権利があり、不当な差別により生活に支障をきたしたり人が傷ついたりすることはあってはならないということ。
- ・連携性…発表会で学んだことを、正しく説得力があるように伝えるためには、一人一人が真剣に学び、グループ学習の中では互いの状況を確認しながら協力して学習を進める必要があるということ。

○本学習を通して育てたいESDの資質・能力

- ・クリティカル・シンキング
学習したことを踏まえて、身の回りの差別問題について自らを問い直し、よりよい生活について考え、実行に結び付けようとする力。
- ・コミュニケーション力
発表の内容や方法について、より良いものを作り上げるために互いの考えを聞き、否定せずに自分の考えも臆せず伝えようとする。
- ・協働的問題解決能力
発表に向け、完成までにあと時間がどれだけあるか見通しを持ち、計画から遅れが生じた場合でも学習の質やペースを調整しながら協働的にゴールを目指す。

○本学習で変容を促すESDの価値観

- ・世代間の公正
過去の出来事に学び、それを現代に生かしてよりよい未来を創ろうという考え方。
- ・自然環境や生態系保全を重視する
環境保全のための取組から学んだことを、自分の生活の中で実践しようとする態度。

・人権・文化の尊重

差別は「する側」の問題であることに気付き、自分の身の回りを見つめ、生き方について考えようとする姿。

○本学習で達成が期待されるSDGS

- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 14 海の豊かさを守ろう



4 単元の評価規準

ア 知識及び技能	イ 思考力・判断力・表現力等	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>①水俣病問題に関して正しい知識を持っている。</p> <p>②差別から立ち上がってきた人々の思いを知り、反差別の立場に立つ大切さと、差別はする側の問題であることを理解している。</p> <p>③環境を取り戻すための歴史や現在の環境へ配慮した取組について正しく理解している。</p>	<p>①資料を通して学んだことと自分の生活を身の周りの差別を無くそうとしている。</p> <p>②人権学習や水俣現地学習で学んだことを踏まえ、水俣病に関わる人権課題や環境を守る取組の実際についてまとめようとしている。</p> <p>③学習成果発表会に向け、グループごとに観覧者に良く伝えるように表現の工夫をしている。</p>	<p>①人権課題について自分の問題として捉えようとしている。</p> <p>②水俣から学んだことを、自分たちの日々の生活に生かそうと意識して学習に取り組んでいる。</p>

5 単元の指導計画（全16時間+学習成果発表会）

学習活動	学習への支援	評価・備考
<p>1 水俣病の症状や原因、被害が拡大した背景を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メチル水銀の摂取により、手足に影響が出るなどした。 ・原因企業や政府は原因が明らかになっても被害拡大の防止を怠った。 <p>2 資料を読み、お母さんの立ち上がりについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初は周りの偏見を恐れて水俣病のことを知られないようにしていた。 ・本当のことを知ること、伝えることが大切である。 <p>3 語り部の方の話を聞き、差別のおかしさについて考える。（水俣病資料館よりDVDを貸出）</p> <p>4 学級の様子を振り返り、より良い雰囲気を作るために大</p>	<p>○小学校の時学習したことを思い出し、正しい知識を身につけたうえで学習に臨むようにする。</p> <p>○新型コロナウイルスの流行期などを思い出し、差別につながるものがなかったか思い出すようにする。</p> <p>○おかしいなと思ったことや疑問に思ったことに線を引かせながら読むようにする。</p> <p>○差別はあくまで「する側」の問題であることをおさえる。される側に原因があるのではない。</p> <p>○本当のことを言えるようになったということは、お母さんの中で何かが変わったのだと気付かせる。</p> <p>○現地学習で語り部の方のお話を聞くことが難しいため、水俣病資料館の資料を活用して学習を</p>	<p>ア① （知・技）</p> <p>ア② （知・技）</p> <p>ウ① （主体的）</p> <p>イ① （思・判・表）</p>

<p>切なについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いのことを知り合い、理解することが大切。 ・クラスで自分のことを言える雰囲気になりたい。 	<p>深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○患者さんたちの思いを知り、自分自身のくらしと重ねながら考えたことを書き、伝え合う。 	
<p>5 水俣病資料館と熊本県環境センターに行き、現地学習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長い時間をかけて計画的に豊かな海を取り戻すことができた。 ・ごみの分別に関して細かい決まりがある。 <p>6 水俣現地学習で学んだことを整理し、考えをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○どのようにして長い海を取り戻すことができたのか、そこには現地の人々のどのような思いがあったのか、資料を通して理解するように事前指導する。 ○環境に配慮した取組について、水俣の実践を学ぶとともに、自分たちの生活に生かせることはないか考えさせる。 	<p>ア③ (知・技) ウ② (主体的)</p>
<p>7 発表会に向けてグループ分けをし、学習したことをそれぞれまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・劇(劇、朗読劇、プレゼンなどを織り交ぜる)、ポスター発表(劇中のプレゼンも)、モザイクアート、発表会背景画制作の4つに分かれる。 ・5クラスをそれぞれ4つに分け、リーダーと担当教師が中心になって進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発表のタイトルを「私たちが水俣から学んだこと、伝えたいこと」とし、人権問題と環境問題について学習したことをまとめるようにする。 ○劇のシナリオは、観覧した人がESDとの関連を意識できるような視点を取り入れる。(①美しい水俣の海は過去の人々の思いと努力があって取り戻されたものである。②水俣の海は世界の海とつながっており、私たちのくらしの中にある水もまたそうである。③様々な差別は「する側」に課題があり、自分を見つめ、生き方を考えていかなければならない) 	<p>イ② (思・判・表) イ③ (思・判・表) ウ② (主体的)</p>
<p>8 学習成果発表会で学んだことを発表し、観覧している他の学年や保護者、地域の方に伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○自分たちが考えたことを発表することで、水俣の海を守る取組が広がっていくのだということを意識させる。 ○発表後には、自分たちが「持続可能な社会の創り手」となっているということに関して達成感を感じられるようにする。 	<p>イ③ (思・判・表) ウ② (主体的)</p>

